

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2006.12) 7巻1号:35~44.

JICA集団「母子保健人材育成」コース研修 日本における保健師活動の特徴 「地域保健看護技術」講義・演習・視察・実習指導案作成から評価まで

杉山さちよ、藤井智子、北村久美子

依頼稿 (報告)

JICA 集団「母子保健人材育成」コース研修

日本における保健師活動の特徴

—「地域保健看護技術」講義・演習・視察・実習指導案作成から評価まで—

杉山 さちよ* 藤井 智子* 北村 久美子*

【要 旨】

本大学は、2003年度から発展途上国の看護関係者に対して母子保健人材育成研修を実施している。

研修の1つである「地域における母子保健看護技術」において、個別・集団・地域全体を看護の対象とする保健師活動の特徴を視野に入れ、技術の習得を目的とし、講義、演習、視察・実習を一貫させた指導案作成を行った。この一連の指導案が研修員にどのように受けとめられ、成果があったのかを評価し、今後の研修に役立てていきたいと考えた。

評価方法については、2006年度 JICA 母子保健人材育成研修に参加した研修員 8 名を対象に視察・実習終了後に非構成的面接法にて、講義、演習、視察・実習の 3 つ指導案を振り返ってもらった。

この結果、研修員からは保健師は地域住民に信頼されて活動していること、看護職以外の職種との連携や行政施策の大切さ、住民との協力の大切さなどが報告され、自国の対応策として新生児訪問の実施や保健師教育のプログラムの強化などを挙げていた。講義から実習まで一貫させた指導案は成果があったと考えられ、次年度もこの指導案を継続して研修に取り入れ、より成果を得られるプログラムを構築していく必要がある。

キーワード 地域保健看護技術、保健師活動の特徴、講義・演習・視察・実習を一貫させた指導案

1. はじめに

本大学は教育理念の中に「国際社会との連帯を深め、その発展に貢献する」と謳っており、2003年度から JICA 札幌との協働・協賛による母子保健人材育成研修を実施している。

研修員は発展途上国の看護関係者で、2003年から2006年までの参加国は25ヶ国、参加された研修員は38名である。

2006年度研修の骨子は「日本の保健医療制度」「母子保健活動の歴史と現状」「母子保健看護技術」「母子保健看護活動の実際」「感染予防対策」「日本の看護職の人材育成」の6つである。地域保健看護の分野では「地域における母子保健活動の現状を通して看護職の役割について考える」をねらいとし、研修員に対し日

本における母子保健活動の歴史や保健施策、日本における保健師活動などの講義・演習を行い、最後に道北地域の病院や地域保健福祉センターでのフィールドワークを企画している。

今回は研修骨子の1つである「地域における母子保健看護技術」において、個別・集団・地域全体を看護の対象とし、一定の地域に住むすべての住民の健康生活について責任を持ち、地域全体の健康レベルの向上を活動の目標とする保健師活動の特徴を視野に入れ、技術の習得を目的として、講義、演習、視察・実習を一貫させた指導案作成を行った（ここでは行政機関で行う公衆衛生看護活動とする）。この指導案が研修員にどのように受けとめられ、成果があったのかを評価し、今後の研修に役立てていきたいと考えた。

*旭川医科大学 医学部 看護学科

2. 「地域における母子保健看護技術」の企画・実施

(1) 講義、演習、視察・実習の概要について

まず講義では、地域看護には「対象者の自立を支える」「地域のケア資源づくり」「看護の継続性」などの活動特性があり、支援のために必要な技術としてアセスメント、コミュニケーション、グループワーク、ネットワークなどがあることを説明した。個別・集団から地域全体の健康課題に結びつけるという特徴的な保健師活動の展開では育児サークルの教材を用いた。母親のニーズをひろい、母親達が育児サークルを自主的に運営していけるよう予算の確保や他職種との連携をはかり、更に母親達が地域で同じような悩みを抱える人達のサポート役になった過程を説明し、地域の中での人材づくりにつながっていくことを強調した。

演習では、研修員に新生児訪問や乳幼児健診のイメージをはかるため、和室のある実習室に母子手帳、積み木、カード、おもちゃ、訪問靴、身長・体重計などを展示した。次に新生児訪問のロールプレイや乳幼児健診のビデオを通し、信頼関係を築く保健師の面接技術を体感し、健診にくる母子の様子を紹介した。

視察・実習では、北海道北地域の保健福祉センターで新生児訪問、1、2歳児健康相談などを体験した。

(2) 実施～「地域における母子保健看護技術」指導案

1) 講義・演習 (学内) 表 1

《日時》平成18年6月8日(木)13:30~15:00

約90分

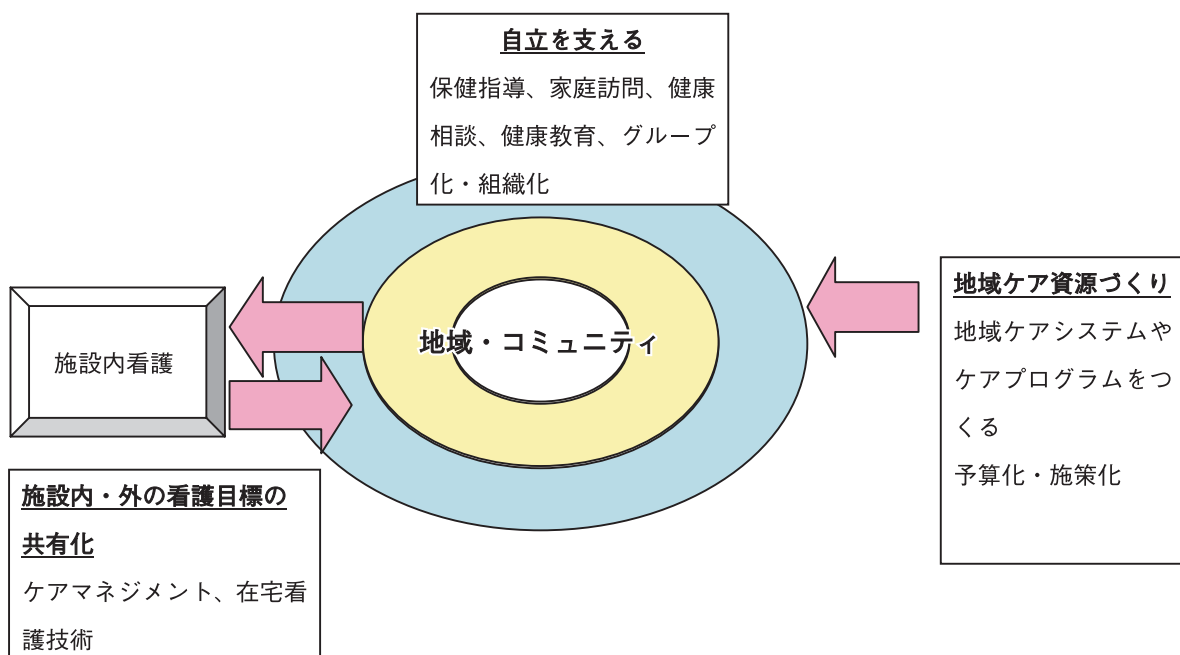
《対象》平成18年度 JICA 母子保健人材育成研修に参加した研修員 8名

テーマ・各ねらい		見取り図		看護学科棟 6階実習室	
<p>○講義・演習「地域・母子保健看護技術」 ～日本における保健師活動の特徴・個人、集団、地域全体を目指した看護について～</p> <p>○ねらい</p> <p>①地域保健看護の対象と支援方法について理解する。 ②地域保健看護の看護技術について理解する。 ③地域保健看護の活動特性である「対象者の自立を支える」「地域のケア資源づくり」「看護の継続性」について理解する。 ④乳幼児健診など保健師活動場面のイメージを図る。</p>		風呂	廊下	公民館での乳幼児健診問診場面設定	台所
<p>準備物品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子手帳 (日本語版・英語版) ・乳幼児健診グッズ (問診票、積み木、おもちゃ、言葉カード、乳幼児健診用エプロン) ・新生児人形 ・乳幼児ベッド ・バスタオル ・机と椅子 (乳幼児健診の問診スタイル) ・保健師訪問カバン ・乳幼児身長計、体重計 (計測式、手動式) ・地域保健看護講義関係資料 (英語版) ・ほ乳瓶、紙おむつ、布オムツ、乳幼児バスタブ 新生児用お着替えセット ・ビデオ (乳幼児健診～信頼関係づくりを目指して) 		トイレ		和室	キッチンテーブル
				乳幼児健診グッズの展示	講義用テーブル
				研修員	研修員
				研修員	研修員
				乳幼児用身長計・体重計	乳幼児健診問診演習
				保健師訪問カバンの展示	ビデオデッキ
時間配分	学習項目	学習内容			留意点・補足説明
導入 5分	あいさつ 自己紹介	本日の流れについて説明する。 自己紹介をする。			<ul style="list-style-type: none"> ・地域保健看護講義関係資料 (英語版) の配布 ・母子手帳 (日本語版・英語版) の配布

時間配分	学習項目	学習内容	留意点・補足説明
		<p>準備物品や6階実習室の説明をする。 保健師や乳幼児健診のイメージづくり。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6階実習室には和室、車いす用トイレ、台所、お風呂などがあり、日本の家庭内をイメージできる構造になっていることを伝える。 ・保健師が乳幼児健診や訪問で使用する訪問カバンを展示し、自由に見学してもらおう。 ・各市町村で配布している母子手帳をみて、どのような内容が記録されているかを確認する。
<p>展開 1 20 分</p>	<p>講義</p>	<p>「地域保健看護の対象と保健師活動について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個人・集団・地域全体が看護の対象であること ○ 家庭訪問や乳幼児健診の個別支援から育児サークルのような集団支援、育児サークルを支援する人材づくりの地域支援に活動がひろがっていくこと。 ○ 保健師活動の特性として「対象者の自立を支える」「地域のケア資源づくり」「看護の継続性があること」 <p>「地域保健看護の3側面と地域保健看護技術について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 対象者の自立を支える 技術としては「保健指導」「家庭訪問」「健康相談」「健康教育」「グループ支援・組織化活動」 ○ 地域のケア資源づくり 技術としては「調整」「ネットワーキング」「事業創出」「予算化・施策化」 ○ 看護の継続性 施設内看護と施設外看護の継続 技術としては「ケアマネジメント」「在宅看護技術」 ○ 地域保健看護技術としてコミュニケーション、アセスメント、日常生活支援、医療依存度の高いケースの看護、プレゼンテーション、グループワーク、ケースカンファレンス、ネットワーク、チームアプローチがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに図式しなから説明する。(図1)
<p>展開 2 25 分</p>	<p>講義</p>	<p>「保健師が母親や乳幼児と出会う場について理解する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域では妊娠届け、母子手帳の交付から母親の出会いが始まる。 ○ 妊婦訪問、新生児訪問、電話相談、乳幼児健診などの場で保健師は母親や児のニーズを把握する。 <p>「個別・集団から地域全体の健康課題に結びつける特徴的な実際活動について理解する」</p> <p>育児サークル・トコトコ(杉山助手の保健師実践活動体験¹⁾)を教材に用い、行政で働く保健師の役割や支援の場面、看護技術について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 母親との信頼関係づくりが重要であること ○ 母親・家族の生活におけるニーズを把握すること ○ 母親自身のセルフケア能力を引き出すこと ○ 地域の人材づくり、資源づくりにつなげていくこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・「育児サークル・トコトコができるまで」の資料(英語版)を用いてわかりやすく説明する。特に育児サークルができるまでの経緯や保健師の支援方法、行政で働く保健師の役割をまとめた部分を重点的に説明する。(資料)

時間配分	学習項目	学習内容	留意点・補足説明
展開 3 25分	講義・演習	<p>「保健師の乳幼児健診場面を実際に行う」</p> <p>○基本的問診項目の理解をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児の発育、発達課題に関すること ・ 家族構成、家族の健康状況 ・ 育児生活の状況 ・ 母親の健康状態、母親の育児不安内容 ・ 予防接種の状況 ・ 育児に関わる社会資源の情報提供 ・ 小児科医による診察内容 ・ 保健指導内容 <p>○短時間で信頼関係を築くための保健師のコミュニケーション技術、アセスメント技術、社会資源情報提供技術を実際に体験する。</p> <p>「ビデオ～乳幼児健診・信頼関係づくりを目指して」からコミュニケーション技術を学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 杉山助手が保健師役、通訳の方を母親役とし、ロールプレイを行い、基本的問診事項の理解や乳幼児健診場面のイメージがもてるようにする。和やかな雰囲気で行う。 ・ ロールプレイをみて、どんな関わり方や技術が大切かを研修員全員に発表してもらい、共有する。 ・ ロールプレイ後、ビデオで再確認し、乳幼児健診会場や母児の様子、保健師のイメージを更に深める。
まとめ 15分	質問 情報交換	<p>わからないことや講義で学んだ点、理解した点を発表しあう。</p> <p>お互いの国の母子保健活動との共通点や相違点について情報交換する。</p> <p>E町、H町のフィールドワーク研修で実際母親と乳幼児に接する実習体験の動機付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィールドワーク研修で乳幼児健診や新生児訪問を体験する機会があるため、講義内容や各国との母子保健活動の情報交換内容を振り返りながら学びを深めて欲しいことを伝える。

< 図 1 地域保健看護の 3 側面と地域保健看護技術について >



2) 学内講義・演習の風景



講義中の研修員の様子



乳幼児健診ロールプレイ場面



乳幼児健診ロールプレイ（通訳の方は母親役）



乳幼児健診物品・訪問カバン展示

3) 視察・実習（フィールド・ワーク）表 2

<p>《テーマ・ねらい》</p> <ul style="list-style-type: none"> 道北地域における地方自治体での保健師の役割を理解する。 道北地域の健康課題、乳幼児の各発達段階・健康レベルに応じた地域保健看護技術、保健師の特徴を具体的に学ぶ。 <p>《視察・実習場所と日時》</p> <ul style="list-style-type: none"> E町保健福祉センター：平成18年6月26日(月) 15:00-17:00 6月27日(火) 9:30-12:00 W市保健福祉センター：平成18年6月28日(水) 9:30-12:00 H町母子通園センター：平成18年6月29日(木) 10:00-14:00 			
視察・実習場所 担当者	学習項目	学習内容	留意点・補足説明など
<p>E町 保健福祉センター</p> <ul style="list-style-type: none"> センター長 保健師係長 母子担当保健師 栄養士 	<p>あいさつ 自己紹介</p> <p>実習</p>	<p>E町の概要と母子保健活動・体系について説明する。</p> <p>母親学級の実際 E町在住の母親達と保健師作成による妊婦人形“文香ママ”を使って、お腹の赤ちゃんの様子、回旋、出産、後産までわかりやすく模擬体験する。</p> <p>離乳食教室・試食会 調理実習室を使い、栄養士による離乳食教室に参加し、乳幼児の発達レベルにあわせた調理方法、食べさせ方について学ぶ。 地元の食材を用いていることを説明する。</p> <p>新生児家庭訪問 保健師による新生児訪問を見学する。 日本の生活環境を知り、母親と保健師の信頼関係を築く場面・技術を学ぶ。</p> <p>乳幼児相談(1,2歳児)のロールプレイ技術体験 実際E町在住の母児に来所してもらい、乳幼児相談の場면을再現してもらい、技術の見学・体験を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> なるべく英訳の資料を意図的に使い説明する。 スライドを効果的に使う。 手作り人形“文香ママ”作成までの経緯について説明する。 実際に試食し、味や食器類などについても学ぶ。 保健師と栄養士の役割や連携について説明する。 最初に家庭訪問バック、乳幼児健診・相談に使う母子管理表の説明を行う。 新生児1事例につき、研修員全員2-3名を担当し、研修員全員が体験する。通訳も同伴する。

4) 視察・実習（フィールドワーク）：E町



母親学級（文香ママを使って出産の様子を説明）



離乳食教室・試食会



新生児訪問・乳幼児健診物品の説明



新生児訪問宅前



新生児訪問（母親・児と共に）

視察・実習場所 担当者	学習項目	学習内容	留意点・補足説明など
<p>W市 保健福祉センター ・保健課長 ・保健師係長 ・母子担当保健師 ・こども課担当者</p> <p>・開拓保健師</p>	<p>あいさつ 自己紹介</p> <p>見学実習</p>	<p>W市の概要と母子保健活動・体系について説明する。</p> <p>保健福祉センター内見学 保健福祉センターの役割について説明する。</p> <p>母子保健に関わる連携について 子育て支援対策、こども課、学校と連携について説明する。 こどもの歯の健康対策について説明する。</p> <p>開拓保健師からの講義 講義から保健師活動の歴史と道北地域における母子保健対策について学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ なるべく英訳の資料を意図的に使い説明する。 ・ スライドを効果的に使う。 ・ 保健師のアイデアが取り入れられているトイレ、相談室、健診室、調理実習室の設計について説明する。 ・ 保健担当分野以外の職員にも研修担当者として参加してもらい、保健師が他職種との連携が欠かせない職種であることを理解してもらう。 ・ 研修員の関心が高い“母子保健手帳の活用”“若年妊娠”“未熟児訪問”“出産場所”“予防接種”を盛り込みながら説明する。 ・ 歯の健康の取り組み状況について、研修員各国の情報交換を行う。 ・ 積極的に質疑応答できるよう雰囲気づくりを行う。
<p>H町 H町役場 母子通園センター 保健師課長 母子担当保健師 療育担当保育士 療育相談員</p>	<p>あいさつ 自己紹介</p> <p>実習</p>	<p>H町の概要と母子保健活動・体系について説明する。 H町の療育システムに焦点をあてて説明する。 保育士や療育相談員とのチーム連携について説明する。</p> <p>発達支援センター事業に参加 発達障害児に対しての観察技術、コミュニケーション技術、スキンシップ技術についての実技を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ なるべく英訳の資料を意図的に使い説明する。 ・ 研修員全員が児とふれ合う機会をつくる。

5) 視察・実習 (フィールドワーク):

E町、W市、H町



E町：乳幼児相談場面



W町：子育て支援対策の説明



W町：開拓保健婦より講義



H町：発達支援センターでの療育指導場面

3. 評 価

2006年度 JICA 母子保健人材育成研修に参加した研修員 8 名に、視察・実習終了後に非構成的面接法にて講義、演習、視察・実習の 3 つ指導案を振り返ってもらった。

研修員は保健師の予防的な関わりの 1 つである“母親自身のセルフケアを高めていく支援”と“地域づくり・人づくり”についてとても共感していた。

学内講義・演習について「準備されている健診の物品なども含めて保健師の活動がイメージできた」(ケニア)、講義ではフィールドワークの導入部分をいただいた。地域のコミュニケーション不足の時代に母親の不安を共有できるような体制づくりは大切だと思う。子育てを地域ぐるみでしていることがわかった」(エルサルバドル)との意見がだされた。

また、フィールドワークによる視察・実習については「E町では、保健師と母子の日頃の信頼関係が深いことを実感した。自分の国に帰ってから小さくてもよいと思うので、保健師や看護職だけで取り組むのではなく地域の人たちと連携して協力してできることは何かを考えていきたい」(タンザニア)、「学内講義で学んだ知識や情報を自分の目で確認することができ、真に有益な機会であった。保健師がこれまで専念してきた仕事が今日の水準に至るには、長い時間を要していること、人々のつながりに無しには保健水準の向上は不可能で、一般住民は保健医療サービスの対象者である以外に、保健師にとって最も重要な救い手でもあることが理解できた」(ボリビア)の感想が聞かれた。

研修終了時には「地域に根ざした保健師活動の重要性」について多く述べられており、看護職以外の職種との連携や行政施策の大切さ、住民達との協力の大切さなどが報告され、自国への対応策として新生児訪問実施、保健師教育のプログラム強化をあげていた。

研修員の発言から保健師活動の特徴である「セルフケア能力の向上」「地域のケア資源づくり」が理解された。保健師活動においては地域住民との信頼関係づ

くりが重要であること、個別のニーズから地域ニーズへと関連づけながら保健事業を展開しており、そのためには保健師以外の関係職種や住民との連携が不可欠であることも述べられていた。

また、「保健師活動のイメージ化」「学内講義・演習はフィールドワーク導入部分」「学内講義で学んだ知識や情報を自分の目で確認することができた」などの発言より、学内講義・演習、視察・実習を一貫性させた指導案は成果があったと考えられる。

4. おわりに

講義、演習、視察・実習を一貫させた指導案作成づくりには、「母子保健人材育成」コース研修の目的を理解していただき、協力していただく E町、W市、H町の保健医療福祉職の方々や地域住民との事前打ち合わせが重要である。

また、研修員を支える JICA 札幌の職員との連携も大切である。次年度もこの指導案を継続して研修に取り入れ評価し、より成果を得られるプログラムを構築していきたいと考えている。

引用文献

- 1) 杉山さちよ：北海道の保健婦活動，社団法人北海道看護協会，57-58，1995.

参考文献

- 1) 村嶋幸代編集：最新保健看護学講座 3，地域看護支援技術，メジカルフレンド社，2004.
- 2) 森口育子：我が国の保健師による国際保健活動の歴史と意義，保健師雑誌，58(11)，916-923，2003.
- 3) 平岩幹男：乳幼児健診ハンドブッカーその実際から事後フォローまで一，診断と治療社，2006.
- 4) 小澤道子，榊沢尚代：気になる子どものサポートー多様な視点を持つ保健指導ー，医学書院，1999.
- 5) 北海道立衛生学院保健婦科同窓会あすなろ編著：健康地域の創造，メジカルフレンド社，2002.